

## 「コンコード訪問2014」

政策推進課交流推進係 木村 絵美

〈はじめに〉 中高生海外交流研修の引率でコンコードへ行くのはとても久しぶりでした。初めて行った時は私もこの仕事を始めて間もなかったのでコンコードのことも、姉妹都市交流の歴史などもほとんど知らず、中高生と同じような気持ちで行ったと思います。しかし今回は違い、これまでの仕事を通じて知り合ったたくさんのコンコードの方がいて、町内の風景や道などにも慣れ、そしてこの交流の素晴らしさを知ったことで、前よりも自信を持ってみんなのサポートと引率をすることができたのではと思います。

〈事前研修〉 今年も出発までに全部で5回の事前研修会を行いました。自分の町の歴史を学び、コンコードのことを勉強し、そしてマクレーン、クリスと英会話の練習をしました。すぐに英語が話せるようになるわけではないけど、みんなの英語を話すということに対しての抵抗や恥ずかしさみたいなものを少しでも無くせられればいいなと思いました。また、この事前研修で集まったことでお互いを知り、一緒に旅する仲間だという意識ができ、だんだんと仲間になれたと思います。

〈英語〉 今回思ったことは、生徒たちの英語が上手。上手というか、英語に対しすごく前向きで、発言しようとする態度もたくさん見られ、とても頑張っているという印象を受けました。よく日本人は英語をたくさん勉強するのに話せない人が多いと言われます。知識はあるのに使わないのももったいないのです。今回アメリカに行って英語を話すこと、つたなくても頑張ってコミュニケーションを取ることの楽しさに気づいてくれたら嬉しいです。

〈出発〉 函館空港に集合しすぐに荷物を預け、2階で出発式を行いました。副町長から激励の言葉をもらい、14人元気に出発しました。道のは順調で、特にトラブルもなく成田空港へ。唯一のトラブルといえば私が空港内でちょっと迷ってしまい、一緒にお昼を食べたメンバーに迷惑をかけたというくらいですしょうか（笑）。

〈飛行機〉 成田発ボストン行のJALの直行便でした。機体は新しい夕

イブで機内の湿度や気圧の調整が前よりもぐっと改善されているし、日系なので日本語も通じたり、日本食が出たり、また観られる映画やアニメもたくさんあり、とても快適でした。到着の少し前に多少揺れ、酔った人もいました。

<最新> ボストンのローガン空港に着いて驚いたのが、「キオスク」と呼ばれる自動入国審査 ATM のようなものに遭遇したことです。私たちのグループは全員それを使うよう指示されました。タッチ画面でまず言語を選び、あとはいろいろな質問に答え、パスポートをスキャン、そして片手の指紋を登録し顔写真を撮影します。最後に出てきたレシートを取って本当の入国審査官のところへ。あとはパパッとした確認だけで通過できました。中には時間が多少かかた人もいましたが、基本的に時間も短くて済み、便利だなと感じました。

<対面式> 空港から真っ直ぐ向かったのはコンコード美術協会の建物の2階でした。そこでホストファミリーとの対面式と歓迎会が開かれました。みんなは緊張しながらもファミリーと対面し握手して一緒に席につきました。セレクトマンの議長が挨拶して歓迎してくれました。食事も用意されていて、食べながらみんなで歓談しました。この歓迎会の企画と準備をしてくれたのは、4月に七飯を訪れたばかりの高校のサイファイクラブの生徒たちで、七飯が開いた歓迎会に感動したのでその恩返しをしたいという思いからだったそうです。これを聞いて本当に嬉しく思いました。

<CCHS> コンコードカーライル高校へ中高生と共にほぼ毎朝集まりました。授業が始まる時間が七飯に比べて1時間は早いため家を出る時間も早く、時差ボケや長旅の疲れも相まってみんな大変だったと思います。集合場所になった図書室ではいつも早くから来ている司書長のロビン先生が温かく迎えてくれました。ふつうの授業の他に、ラジオ放送やテレビ収録と日本ではあまり体験のできない貴重な授業にも挑戦できました。サッカー部に参加したときも、大きな試合の直前でしたが七飯の参加者2人を温かく迎え入れてくれました。今の校舎の裏に新校舎が建てられていて、来年春には引っ越しが出来ます。まだそんなに古くないように見えた今の校舎ですが、実はあちこち壊れたり雨漏りしたりしているそうです。私たちはこの校舎に通う最後の訪問団となりました。

<住宅事情> コンコードでは昔ながらの伝統スタイルの家を改築したり補修したりして長く住んでいる家が多いのですが、最近では日本のよう

に壊して新築するところも出てきたそうです。子どもたちが家を離れ夫婦では大きすぎる家から小さ目の家を建てたり他に移ったり、新しく引っ越してくる家族では元々あった家を壊し新築することも増えたようです。また日本の分譲マンションのようなコンドミニウムも町内に新しく建てられていました。私のファミリーのトムさんたちは高齢になり階段が辛くなったが家を離れたくないとの理由で他へ引っ越すよりも住宅用のエレベーターを導入することを決めたそうです。

〈ハロウィン〉 今年の訪問は例年よりも遅く、ちょうど10月31日の



セーラム市内でギャビーとちょっと怖いピエロの人形と

ハロウィンにぶつかりました。民家もお店もお化けやカボチャ、かかし、蜘蛛などのデコレーションを飾っていました。中には白いドレスを着た人形をベランダに飾っている家があって、本物の人に見えてちょっと驚きました。CCHSでも全員ではありませんが、たくさんの先生や生徒が仮装して登校していました。日本ではなかなか出来ないことなので七飯の中高生たちも良い体験になったのではと思います。夕方には仮装した子供たちがお菓子をもらいに近所を歩くのですが、子供が少なくあまり回ってこない地域などではお菓子を玄関先に置き自由にとってもらって、夕食に出かけたりすることもあるそうです。

〈セーラム市〉 ボストンの北にセーラム市という、魔女の伝説が残る街へ連れて行ってもらいました。これまでの訪問団では初めてのことだと思います。ガイドさんの説明を受けながら街中を散策し、その後かつて貿易船としてアジアまで航行していた船のレプリカを見学しました。メインストリートではたくさんの大道芸人がいて様々なパフォーマンスをしていて、観光客も大勢いました。また、通りのお店では他では買えないような少し不気味なお菓子や飾り、おもちゃなんかが売られていました。店内には占い師のコーナーもありました。

〈再会〉 今回の訪問で特に嬉しかったことの一つに、たくさんの友達に再会できたことがあります。元国際交流員のボビー、ウィットニー、エミリー、現在は大学生でCCHS在学中に2度七飯を訪れたことがあるギャビー、そして高校卒業後に七飯を訪れたミランダに再会できたことでした。

ポビーは仕事で日本語を使い、ギャビーは大学で日本語を学んでいて、2人は上手な日本語で通訳やみんなのサポートなどをしてくれとても助かりました。みんなと再会し、近況を聞いたり七飯での思い出を話したりと一緒に楽しい時間を過ごすことができました。七飯に来たみんなが今もこうやって交流に関わってくれることをとても嬉しく思いました。

<パーティー> 滞在中にたくさんのホームパーティーを開いていただきました。キンボールさんのお宅では参加者全員でいか踊りが踊れるくらい広い地下で歓迎会を開いてくださり、アイスクリーム屋を営んでいて、自家製アイスもふるまってくださいました。また、ジュンコさんのお宅に集まった時もこれまで交流に携わってくれた懐かしい方々も集まり、盛大なパーティーとなりました。この日はアメリカンフットボールの地元のチーム「ペイトリオッツ」の試合がテレビ中継されていて、それをみんなで観戦しました。日本ではまだ馴染みが薄いスポーツなので私たちはルールを教えてもらいながら観戦し、みなさんの熱狂的な応援と一緒に盛り上がりました。

<出発> コンコード出発の朝は始業前だったこともありまだ薄暗くて寒かったです。そんな中たくさんのファミリーが見送りに来てくれました。お互いに別れを惜しむ生徒と家族の様子を見て、今年もいい交流と友情がうまれたんだなと実感しました。最初は慣れない環境で緊張と不安がいっぱいですが、だんだんと英語にも慣れ、少しずつ会話もできるようになって家族の一員として楽しめるようになったと思います。怖がらずに進んで挑戦することで得られる経験が必ず自分のためになります。みんなそれぞれの気持ちを胸に別れを惜しみつつコンコードを出発しました。バスの車内はしばらくの間シーンと沈んでいました。

<帰国> ボストン市内のホテルに1泊しました。古めのホテルは少し変わった、横に広い造りでした。帰りはやっぱりお土産が増えすぎてしまい、みんな重量制限との戦いとなり、ホテルで各自最後の荷造りと重さの調整をして空港へ行きました。しかし、私を含め数人がオーバーとなり、カウンター前でスーツケースを開けることになりました。預け荷物の数を増やしたり、手荷物に中身を振り分けたりして全員無事に飛行機に乗ることが出来ました。搭乗ゲートに着いてからの待ち時間はそれぞれ最後の買い物をしたり、ゲームをしたりして過ごしました。帰りの便もほぼ満席でした。機内では多少のおもしろハプニングはあったものの、全員元気に無事に日本に着くことが出来ました。成田空港内にあるホテルに泊まりましたが、

久しぶりに食べる最初の日本食はカレーでした。みんな美味しいと完食でした。

<終わりに> 今回の研修も無事、大成功に終わることが出来ました。それもこれもコンコードの皆さんの大きな力添えがあってこそ可能でした。特にトムさんとジュンコさんにはお世話になりました。毎日朝早くから、時には夜遅くまで引率して下さり、食事や車の手配、パーティーの準備やファミリーとの連絡調整など本当に大変だった

と思います。言葉では感謝し尽くせないほどです。また、デイビッド先生をはじめとするコンコードカーライル高校の先生方にも生徒たちの受け入れで大変お世話になりました。そしてホームステイを引き受けてくださったホストファミリーのみなさんとコンコードカーライル七飯ネットワーク（CCNN）のみなさんにも本当に感謝の気持ちでいっぱいです。この海外交流研修が中高生にも大人にも人生を変えるような素晴らしい体験をさせてくれる本当に素晴らしい研修だと改めて実感しました。ふつうの海外旅行なら誰でもできますが、ホームステイをして、コンコードのみなさんの心温まるおもてなしを受け、新しい友達を作れる。こんな機会はな



ホストファミリーとしても大変お世話になったスーザンさん、トムさん



訪問団メンバー全員で

かなかありません。そしてお互いを思いやれる素晴らしい関係が出来ているのだと改めて思い、この交流の存在に感動するばかりです。この貴重な交流をこれからも続けさらに大きくしていくために私もずっと微力ながらお手伝いをし続けて行きたいと思いました。